

航空機観測によって探る東アジアの大気環境影響

Impact of East Asian emissions on atmospheric environment investigated from aircraft observation campaigns

北 和之[1]

Kazuyuki Kita[1]

[1] 茨城大・理

[1] Ibaraki Univ.

東アジア地域での近年の産業活動の活発化に伴い、そこから放出される各種汚染物質の大気環境への広域的な影響が懸念されている。そこで、その影響を定量的に解明することを目的に、近年大規模な航空機観測が日本、アメリカを中心に行われている。2001年2-4月には、NASAを中心とし対流圏オゾンなどへの影響解明を明らかにしたTRACE-P観測キャンペーン、NCARなどを中心としてエアロソルへの影響を調べたACE-ASIA観測キャンペーンが行われた。2001年1月にはNASDAを中心に、冬季の汚染物質の輸送とオゾン光化学を調べるPEACE-A観測キャンペーン、同年4-5月には太平洋の東西で東アジアからの汚染物質の挙動を調べるNASDAを中心にするPEACE-BおよびNOAAを中心にするITCT2K2が行われた。

本講演では、これらの観測キャンペーンの概要を紹介し、そこで明らかになった結果について

- ・東アジア域での汚染物質放出源
- ・東アジア域からの広域物質輸送過程
- ・輸送中の光化学反応過程とオゾン生成

を中心に示す。また今後の研究の方向性などについても紹介したい。